

2012 年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	総合政策学部	身分	教授
氏名	丹沢 安治		
NAME	Yasuharu Tanzawa		

1. 研究課題

(和文) 日系企業と新興国経済としての中国における対巨大市場戦略—中国地方政府の地域間競争と住民の文化的特性を中心にして—

(英文) Strategies of Japanese companies in China as emerging markets

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度）

丹沢が2014年10月まで学部行政職に就いていたため、時間的な制約があり、研究調査活動のいくつかは、他の学会研究会との連携、共催という形にして研究をつづけた。

①2013年9月30日、東京商工会議所港区支部、安藤憲吾氏、株式会社トラスト・テック菊池信仁氏、株式会社TTM、石井秀暁氏東アジアにおける事業展開についてインタビューを行った。東商では中小企業が海外に進出する機運が高まっていることなどが指摘された。株式会社トラスト・テックは中国にHKTTを2006年に設立し、高度職業人としてのエンジニアの派遣業務を展開しつつあること、株式会社TTMは、中国・インド・東南アジアを視野に入れ、ベトナム、タイにおける自動車産業への人材派遣業務を展開しているという知見がえられた。

②2013年11月4日（月）～6日（水）1.沖縄IT津梁パーク、2株式会社沖縄ソフトウェアセンター、3.沖縄物流特区(株)ANAcargoを訪問した。(株)OSC 饒平名知寛氏、宮城義人氏より、(株)OSCのビジネスモデルについてとくに中国を中心としたオフショアリングに関連して説明を受けた。(株)ANAcargo 貨物事業室沖縄販売部、角田健文氏からは、香港→沖縄→羽田(朝)(通関)空港→女満別という経路を一日半で結ぶビジネスモデルについて情報を得た。

③中国復旦大学経済学院陳建安教授と面談。中国（上海）自由貿易試験区の概要、上海自由貿易区の動向、上海自由貿易区の課題、日本企業の対応についてインタビューした。

④2013年12月15日（日）～22日（日）日本インダストリアルエンジニアリング協会（日本生産性本部所属）のベトナムにおける日系企業調査に参加した。チャイナプラス1の実態を見た。

(英文)

To collect information about the market strategies of Japanese companies in China, four interviews were conducted: with a temporary staffing company (Trust Tech Inc.), a logistics company (ANAcargo Inc.), The Asia IT Research Center in Okinawa, and Tokyo Chamber of Commerce and Industry. In addition, a meeting was held with Professor Chen Jian-an of Fudan University in China, during which knowledge and information regarding the Shanghai Free Trade Zone were obtained.

4. おもな発表論文等（予定を含む）

【学術論文】（著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月）
【学会発表】（発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）
① 丹沢安治「日中間ソフトウェアオフショア開発における重層的取引構造の共進化」
国際戦略経営学会・理論実践研究部会、東京、2014年6月（予定）
② 丹沢安治・潘若衛・室勝弘「ソフトウェア開発におけるデュアルショアモデルの確立」
国際戦略経営学会・理論実践研究部会、東京、2014年6月（予定）
【図 書】（著者名、出版社名、書名、刊行年）
研究叢書『日中オフショアビジネスの展開』丹沢安治編著 2014年2月、同友館、310ページ
【その他】（知的財産権、ニュースリリース等）